



小林 勤さん

こばやし かつむ

シニア海外ボランティア

【品質管理】

【派遣国】

メキシコ

【派遣期間】

2012年3月～2014年3月

長く培ってきた経験を存分に 生かせる場で活躍したい。

定年まで勤め上げたメーカーで、シンガポールとマレーシアの工場に赴任し、計7年間、製造技術と品質管理を担当してきた小林さん。退職後も、こうした自分の経験を生かして、より自由に活動したいという想いを持っていました。そんな場所を探して辿り着いたのが、JICAのシニア海外ボランティアでした。

応募のきっかけ

長く勤めてきたメーカーの定年を目前に控え、退職後は一企業に縛られずもっと広い世界へ踏み出したいと考えていました。そんな時、妻が見つけてきてくれたのが、JICAのシニア海外ボランティアでした。資料を見て、日本のシニア世代が培ってきた経験や技術を欲している人々が、開発途上国にはまだまだいるということに気付かされ、自分が探していたものはこれだと直感。今までの自分の経験を生かせることに喜びを感じ、応募を決めました。

派遣前訓練

60歳を超えて初めて取り組んだスペイン語には大苦戦でした。とはいえ、訓練所入所前に独学で勉強を始めていたこともあって、訓練の出足はすこぶる好調でした。しかし、そのことが若い訓練生の競争心に火をつけ、あれよあれよという間に逆転される結果に。その後は授業について行くのがやっとでしたが、若い人たちと同じ場で訓練を受けたことは自分にとって良い刺激となり、強く思い出に残っています。

派遣中

ケレタロ工科大学の教員たちに、私が日本のメーカーで一貫して携わってきた日本式生産管理の実践技術を教えました。また、近郊の中小企業・工場を訪問し、生産改善を支援してきました。派遣中は、現地の人々の時間に対する意識の違いに苦労しました。例えば、約束の面会時間に工場に訪問したところ、責任者が不在ということも。しかし根気強く向き合っていると、状況も次第に変化。彼らが自ら問題解決のために動き出したときは本当にうれしかったです。

また同時に、彼らとの出会いは、日本では当たり前とされている考え方や価値観を改めて見つめ直す良い機会にもなったと思います。日本の感覚は決して世界標準ではないということ、さらにどちらの価値観が良い悪いといったことはないんだということを知ることができました。シニア海外ボランティアに参加しなければ、このような新しい生き方や考え方に触れることはできなかったと思います。

帰国後（現在）

スペイン語検定試験4級を取り、帰国後も継続してスペイン語の勉強をしています。また、地域コミュニティでのボランティアや帰国後報告発表会準備など忙しく過ごしています。ボランティア活動経験を紹介することを目標に、サークル活動にも参加しています。赴任中に覚えたBalle de salon（社交ダンスのような踊り）を日本でやりたいので、現在仲間を探しているところです。

▽ 大学での講義風景



▲ 現地スタッフへの直接指導



▲ 現地工場で日本式生産管理システムを説明



小林さんへの3つの質問

Q1. 行くまでに不安だったことは？

メキシコへの出発前に、日本で前任者と現地の様子について十分な情報交換ができたので、不安なく出かけることができました。ただ、スペイン語や、活動への準備には不安がありました。

Q3. 家族・友人の反応は？

JICAのシニア海外ボランティアは、家族随伴制度を利用することができます。私はこの制度を使って、シニア海外ボランティアを勧めた妻に随伴家族として一緒に来てもらい、生活面のサポートをお願いしました。私と妻の挑戦について子どもたちも、賛成してくれました。一方、友人からの反応はさまざまでした。「なぜ今開発途上国に自らすすんで行くの？」とか、「頑張っていて来て！」とか。私は、定年退職を経た後も、自分の力を生かせる場所に行けることほどうれしいことはないと思っていたので、どんな反応があっても気持ちはブレませんでした。

Q2. 大変だったこと、苦労したことは？

日本では一般的な考え方で現地では理解されないことに、当初は戸惑いました。たとえば、5Sなどの日本式生産管理手法を導入しようとしても、メキシコの人々には簡単には浸透しませんでした。「どうしてやらないの？」と強く言っても、なかなかこちらの真意が伝わらない。彼らが自分で進んで行動しなければ意味がないので、無理矢理強いたりせず、じっくり待つという方法に途中から切り替えました。時間はかかりましたが、少しずつ理解者が増えていったことは嬉しかったです。



JICA ボランティアで得たもの

時間におおらかになりました。最初はメキシコの人々の時間のルーズさにストレスさえ感じていました。しかし、しばらく時間を気にせずに生活してみると、自由でおおらかな気持ちになることに気付きました。家族を第一にしていることが、彼らの心の豊かさを生んでいるようにも思えました。

これからJICAボランティアを目指すみなさんへのメッセージ

まずは一歩踏み出してほしいと思います。踏み出せば、必ず全く違った世界が広がってきます。まさにこれが海外ボランティアの醍醐味。異文化にふれることで、驚きと面白さが見えてきます。そして新たな自分を再発見する、またとないチャンスでもあります。ぜひチャレンジしてください。